

ブロイラーの飼育密度が発育におよぼす影響について

木原 貞士・奥山 正高

(宮崎県総合農業試験場養鶏支場)

KIYAHARA, S. and OKUYAMA, M.

Effect of Density in a Pen on Growth in Broiler.

I 緒言

近年養鶏経営の規模拡大に伴ない一定区画により多くの鶏を飼育する傾向が現われてきた。しかしある一定の密度よりも飼育密度が高くなると、当然鶏の発育に悪影響をおよぼしていくものと思われる。そこで当支場では最も合理的に飼育できる適正飼育密度を究明するために一連の密度試験を実施したが、今回は本県に多いブロイラーのケージ飼育を対象と

した試験の結果を報告したい。

II 試験方法

1 飼養期間

第1回 昭41・11・28～42・2・5までの70日間

第2回 昭42・1・21～3・31までの70日間

2 供試ヒナおよび羽数

WC×WR, ♂ 150羽, ♀ 150羽の計300羽

3 試験区分

区 分	性	羽 数	幼すうケージ		中すうケージ	
			密 度	指 数	密 度	指 数
対 照 区	♂ ♀	25 25	1羽当り 180 cm ²	100.0	1羽当り 540 cm ²	100.0
やや密飼区	♂ ♀	25 25	〃 144 〃	80.0	〃 432 〃	80.0
密飼区	♂ ♀	25 25	〃 120 〃	66.7	〃 360 〃	66.7

注) { 幼すうケージの規格 奥行 40 cm, 高さ 25 cm } 開口は適宜調節
{ 中すうケージの規格 奥行 60 cm, 高さ 36 cm }

4 供試飼料

飼料は不断給餌, ブロイラー幼すう用市販配合飼料を20日齢まで給与, 21日齢から5日間で中すう用に切替, そのまゝ試験終了まで給与, 水は不断給水。

5 管理

雄, 雌は別飼とし, 餌付日から13日齢まで村井式バタリー育すう器, 14～27日齢は屋内幼すうケージ, 28日齢以降は屋内中すうケージで飼育。なお口ばし切除は行なわず, ニューカッスル予防注射は4週齢に於て実施。

III 試験成績および考察

1 密飼区の発育は他の二区に比べて劣る傾向を示した。

2 カニバリズムの発生は対照区が最も多く, 密飼区はわずかに発生し, やや密飼区ではほとんど発生しなかった。

3 育成率は密度が高くなるにつれて低下する傾

向を示した。

4 飼料摂取量は密度の最も高い密飼区が最も少ない傾向を示した。

5 飼料要求率は第1次試験では密飼区が最も高く, やや密飼区が対照区よりも低い傾向を示したが, 第2次試験では三区の間に著しい差はみいだしなかった。

6 ヒナの1羽当り粗利益は第1次試験ではやや密飼区が最も多く, 密飼区が最も少なかったが, 第2次試験でもやや密飼区が最も多く, 密飼区, 対照区の順であった。

IV 要 約

今回実施した冬期におけるブロイラーの飼育密度試験では, 三区間の中でやや密飼区が最も有利な傾向を示したが, 品種, 季節による影響も考えられるので, 今後はさらにこの点を考慮して試験を実施していく計画である。